



浜田和幸の 永田町便り

第28号

2014年6月発行 編集・発行 浜田和幸事務所 URL <http://www.hamadakazuyuki.com> BLOG <http://ameblo.jp/hamada-kazuyuki>
東京事務所 〒100-8962 東京都千代田区永田町 2-1-1 参議院議員会館 719号室 Tel 03-6550-0719 / Fax 03-6551-0719
鳥取事務所 〒682-0023 鳥取県倉吉市山根 583-3 サンヴェルツエ I 2F Tel 0858-24-5018 / Fax 0858-24-5038

程永華大使招きセミナー

憲政記念館 500人満席に

参加者で埋め尽くされた「浜田和幸
第3回国際政治経済セミナー」



浜田和幸議員が主催する『第3回国際政治経済セミナー』が6月16日、衆議院の施設である憲政記念館で行われ、約500人が熱心に参加。日中関係が戦後最悪とも言われる中で、程永華・中国大使を招いたことも内外から大きな関心を集め、予定の2時間を超える白熱した展開となりました。



その後、程永華大使が登壇。日中国交正常化後初の中国人留学生として1973年来日以来、累計26年に及ぶ日本滞在で培った流暢な日本語で講演と対談に臨みました。「日中関係は川の流れるに抗うように前進を阻まれた。良い流れに乗ろうという時に一部勢力の妨害を受けている気がしてならない」と発言。知日派の外交官として「こうした状況に出会うたびに気をもみ、残念に思っている」と、現状の憂慮を告白。

大使 日中関係の悪化を憂慮

同会派の荒井広幸議員が冒頭の祝辞を述べた後、元防衛大臣の北澤俊美議員も登壇し「日中はどこへも引越できない。永遠にお隣り同士。仲良くしないで何があろうか」と、日中対話の必要性を強調しました。

続いて浜田議員が挨拶。「中国との関係を好転させずにどうして積極的平和外交が

できようか。『対話のドアは常に開いている』と総理はおっしゃるが、開いているドアがあさっての方を向いては誰も気づかない。開けるだけでなく、一歩または二歩踏み出して、相手と議論を重ねることが世界から信頼を勝ち取るために欠かせない」と、政府に前向きな対応を促しました。

日中関係の最大の難問は「領土問題と歴史問題」とし、「両国が得た共通認識と了解事項が、一部勢力によって蔑ろにされたことが問題を複雑にしている」として、2012年4月に当時の石原慎太郎・東京都知事が尖閣購入の意思を表明してから国有化に至った日本側の動きを批判しました。

「両国は一衣帯水 未来の視点を」

程大使は両国の2000年に及ぶ交流の歴史を遡り、切っても切れない「一衣帯水」の関係にあることを強調すると共に、未来の関係発展のために冷静な視点を持つ必要性に言及しました。

一方で、自国の外交について「揺るぎなく平和の道を歩んでおり、現在も将来も覇権を求めるところはない」として、昨年10月、習近平国家主席が周辺国との外交指針で明示した「親・誠・恵・容」のキーワードを挙げ、「親しく、誠意を尽くし、互恵原則に基づき、広く包容する」と、中国独自の解釈を披瀝。

対談では、浜田議員が尖閣諸島の問題や、ベトナムやマレーシアなどと海洋権益を巡り争っている問題について質問。程大使は尖閣について、「鄧小平副総理が1978年に来日した際、『日本政府と話したが、議論してもまとまる



話ではない。次の世代はもっと賢く聡明になるから後世に任せよう』として、日本人記者団から満場の拍手を受けた。これまでも何回かトラブルはあったが、政治的なコンセンサスに基づき、互いにこの時の気持ちで問題を処理してきたが、日本が尖閣購入の話で問題化した以上、中国側も取り上げなければならない』として懸案を再燃させた日本側に責任があるとする一方、先日訪れたという富岡製糸場での視察と絡め、関係改善の「糸口」を模索していると強調しました。

また、南シナ海の領有権問題について、国際司法裁判所に委ねる考えはないかという会場からの質問に、「南沙諸島では確かに解決すべき問題があるが、西沙諸島は違う。1970年代までベトナムは政府間交渉や地図の表記でも中国領有と認めていたが、後になって立場を変えた。西沙諸島の島々は現在全て中国の管理下にあり、ボーリング地点は島から17海里。ベトナム沿岸からは150海里も離れている」として、領有権問題そのものが存在しないと明言し、「日本の報道では中国ばかり悪者になっているのが

腑に落ちない」とメディアへの不満を強調しました。

学生など若者に期待することを問われると、「偏りの多いネットの意見だけでなく、両国の若者が互いの文化を直接訪れて学び将来の両国発展につながる交流をしてほしい」と呼びかけました。

関係改善糸口見つからず—中国大使 (時事通信)

中国の程永華駐日大使は16日、東京都内で講演し、厳しい状況が続く日中関係について、「改善の糸口がなかなか見つけられない」と厳しい認識を示した。

大使は、群馬県の富岡製糸場を最近訪れた話を引き合いに「蚕の繭は、絡んでいるものから『糸口』を出して糸を作る。今の中国と日本、どこから糸口を出すのかと繭を見ながら考えていた」と語った。

また、地方自治体間の交流も停滞気味なことについて、南京事件を否定した2012年2月の河村たかし名古屋市長の発言を理由の一つに挙げ、「南京市の代表団を迎えたときの発言で、帰国した代表団は中国のインターネットで大変にたたかれた」と指摘。中国の自治体が日本との交流に二の足を踏むようになったと述べた。

程大使：西沙諸島緊張で「中国は国際法に違反しない」(毎日新聞)

中国の程永華駐日大使は16日、東京都内で講演し、南シナ海の西沙(英語名パラ

各紙の報道

セル) 諸島周辺で中国とベトナムの艦船が衝突するなど緊張が高まっていることについて「関係国が故意に挑発したことへの対応措置だ。中国は厳格に国際法に基づいて海洋権益を守っており、国際法に違反するいかなる行為もしない」と述べた。日本などは、中国の行動を「力による現状変更の試みだ」と非難しているが、程氏はこうした批判に強く反論した。

中国脅威論を振りかざす日本の一部政治家は冷戦型思考—中国大使 (Record China【中国サイト】)

2014年6月16日、中国の程永華駐日大使は東京都内で講演し、「歴史を認めない日本の一部政治家が、中国脅威論を振りかざすのは冷戦型の思考だ」と批判した。香港フェニックステレビ(鳳凰衛視)が伝えた。

東シナ海や南シナ海をめぐる中国の一連の行動については「関係国が故意に挑発したことへの対応措置だ」とした上で、「この問題において中国は厳格に国際法に基づい

て海洋権益を守っている」と強調した。

程氏はまた、日本メディアが南シナ海問題をめぐり事実と異なる報道をしていると非難。「日本政府は両国関係の改善に向け、正しい態度を見せるべきだ」と求めた。

講演は浜田和幸参議院議員が主催したものの、北澤俊美元防衛相など国会議員のほか、市民約400人が来場した。

駐日大使、両国の再認識と位置づけが両国関係に影響 (CRI 中国国際放送)

中国の程永華駐日大使は16日、日本で「歴史が示しているように、中国と日本が相手への再認識と位置づけの問題にうまく対応できるかどうかは両国関係の発展方向を左右する重大な要素」と述べた。

この日、程永華大使は、日本の憲政記念館に招かれて「中日関係の改善と中日の相手への認識と位置づけの再建」をテーマに講演を行いました。講演の中で、程永華大使は、上述の問題を「相手を友とみなすか、敵とみなすか。相手の発展をチャンスと捉えるか、挑戦ないし脅威と捉えるか」とまとめました。